

1424

(2)

平極秋

海軍功績調査部長殿

鬼怒機密第一號入

昭和十九年十月二十六日

軍艦鬼怒戦闘詳報

自昭和十九年十月十八日
至昭和十九年十月廿五日

捷一號作戦

軍艦鬼怒

鬼怒

十一月二日送付

川崎

1941.11.27
接受

註
艦沈没ノ際諸記録類大部分喪失セルヲ以テ
精確ヲ期シ難シ

鬼
船

自昭和十九年十月三日
至全 十月二十六日 捷號作戰之關詳報

軍艦鬼怒

略

一 形勢

二 計畫

一 任務企圖

第十六戰隊ニ番艦トシテ九月二十五日第一遊撃部隊ニ編入十月十八日
第一遊撃部隊第四部隊トシテ「リシカ」泊地出撃十月二十日「ブルネイ」
着同日機密聯合艦隊電令作第三五九號ニ依リ第一遊撃
部隊ヨリ除カレ南西方面部隊ニ編入第三遊撃部隊トシテ
十月二十日「ブルネイ」ニ警戒部隊トシテ在「カカヤン」陸軍部隊
急速「レイテ」島方面揚塔作戦及「レイテ」島方面敵兵力ノ
撃滅ニ任ス

作戦準備

搜索偵察及情報蒐集 略

(四) 作戰兵力、移動、集中及展開 略

(ハ) 特ニ準備セル兵力、兵器、作戰資材、施設、訓練等

自十月十一日至十月十六日出撃準備ヲ昭南軍港ニ於テ完成

(五) 一、部未完成、十月二十四日「マニラ」ニ於テ陸兵揚格用小發

ニ隻搭載

(ニ) 作戦打合及陸軍上協定

第十六戰隊司令部ニ於テ實施、外特ニナシ

三、經過

(一) 指揮官、作戰(戰闘)指導

(二) 自艦及友軍ノ戰闘經過

略

晴	晴	晴	晴	晴	月天
二四	二二	二一	一八	一七	日
〇七〇〇	〇四〇〇	一七〇〇	〇一〇〇	〇一〇〇	候
マニラに出撃	青葉ヲ曳航マニラニ向フ	青葉被雷セルヲ以テ附近ニ於テ警戒戒ニ任スルト共ニ青葉曳航準備ヲ行フ	ブルネイニ前進根拠地出撃	自艦ノ戦闘經過	友軍ノ戰鬥經過
マニラ湾内ニ於テ敵戰鬥機約三〇機ト交戦 戰果 敵機五機(内不確實ニ機) 被雷 銃撃ヲ依リ 戦死 八名 戦傷 四一名	青葉ヲマニラ湾ニヨルス礁ノニ。五度六度ニ曳航投錨セシメタル後 艦ヲ曳航ニ變更マニラ港ニ向フ マニラ港ニ於テ補給並ニ陸兵及物件一部搭載	青葉被雷セルヲ以テ附近ニ於テ警戒戒ニ任スルト共ニ青葉曳航準備ヲ行フ	ブルネイニ前進根拠地出撃	友軍ノ戰鬥經過	友軍ノ戰鬥經過
浦波会上交戦	浦波会上	青葉被雷セルヲ以テ附近ニ於テ警戒戒ニ任スルト共ニ青葉曳航準備ヲ行フ 敵潛艦當要(本會)ト交戦 浦波敵潛艦撃沈 効果不明	会 上	会 上	会 上

鬼心

<p>晴 二六 三四五 〇五〇〇</p>	<p>今右終了、出港ヨロシ湾ニ向フ</p>	<p>全</p>
<p>晴 二五 〇八二五</p>	<p>一五四五 一七三〇 全右終了、出港ヨロシ湾ニ向フ</p>	<p>浦波全上交戦 被害ナシ</p>
<p>〇九五二</p>	<p>戦果 戦果 戦果 戦果 戦果 戦果</p>	<p>全 全</p>

〇六三五
〇九三五
一〇二〇

敵哨戒機ニ被テ見觸接セラル
敵味方不明機數機見エ

北緯二度五分東經一二三度四分地兵附近ニ

於テ敵戰爆雷約五十機ト交戦 五〇米以内ニ三發

一〇〇米以内約二〇發 二〇〇米以内約三〇發 三〇〇米以上

約五發爆彈及魚雷一本ヲ受ケルモ被害ナシ

左舷後部(後部機械室)ニ直撃及至近彈計三發

ヲ受テ後部機械室及士官室後方区割ニ至ル

二八〇番ヒームヨリ二五番ヒーム附近ニ至ル左舷外板

約三〇米ニ及リ脱落右舷側外板ニ凹凸ノ破生シ

五番砲臺上ノ後檣中途ヨリ折損前部機械室

及左舷後部ニ彈片ニ依ル破孔ヲ生ス

後部機械室浸水蒸氣噴出飛取機使用不能

艦橋機械室間通信装置全部破壊不通

後方隣接区割ニ逐次浸水傾斜左ノ五度トナル

前機(外ニ軸)運轉トナス

人力操舵配置ヲ就ク

艦橋機械室間應急通信開始

浦波敵戰爆
約三〇機ト交戦
浦波被彈火災

一一三五

鬼

一一四〇

一一〇〇

一一一〇

一一一五

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

一一三〇

後部士官室後方橫隔壁浸水遮防補強完了

重量物移動

傾斜左八度前部機械室浸水。大排水開始

航行不能トナル

後部機械室火災隣接区劃、冷却ニ努ム

前部機械室遮防完了

一部機銃員及見張員、外總員防禦部置ニ就テ

防水蓆展張、傾斜復原ニ努ム、前部右舷重油

カクニ注水開始、發電機全部使用不能

傾斜左八十二度

敵艦爆ニ機來襲

魚雷及爆雷全部投棄

三號発電機室火災

傾斜左九度ニ減テ前部右舷注水ニ時中止

專ラ防火ニ努ム

後部電信室後部彈藥通路火災

後部区劃浸水漸次增大、排水ニ努ム

火災概テ鎮火セリ、浸水大トナリ後部漸次沈下

ヲ始メ前部注水再開

一二三四
浦波沈没

一六〇〇 左舷短艇ヲ廢棄ホス
 一七〇〇 前部機械室排水不能トナル
 一七一〇 傾斜急激ニ増大左三六度トナル
 一七一五 機密書類及圖書ノ處分完了
 一七二〇 軍艦旗ヲ降下シ総員退去
 沈没

戦果 撃墜 十機
 被害 戦死 八三名
 戦傷 五一名
 船体 沈没

(三) 作戦ニ影響セシル事項
 特記事項ナシ
 (四) 行動圖 別紙
 四 令達報告及通報

發日時	受日時	宛(通報)	種別
愛宕 十七日 元時	十七日 〇九〇〇	捷一號作戰警戒	手旗
十七日 十七日 一〇四〇	十七日 一〇四〇	(轉電) 昨電令作第三五三號	"
十七日 十七日 一三〇〇	十七日 一三〇〇	第一遊撃部隊八速出撃手ヲルネイニ進出セヨ	"
十七日 十七日 一三五〇	十七日 一三五〇	當隊明十八日一〇〇〇出撃手ノ予定	"
十七日 十七日 二四〇〇	十七日 二四〇〇	YB 信令作第二號	"
十七日 十七日 二四〇〇	十七日 二四〇〇	第三軍隊区分トナセ	"
十七日 十七日 二四〇〇	十七日 二四〇〇	YB 信令作第三號	"
十七日 十七日 二四〇〇	十七日 二四〇〇	第一遊撃部隊ハ左ニ依リ EW 出撃手 BVニ進出ス 出撃手要領	"
十七日 十七日 二四〇〇	十七日 二四〇〇	(1) 第二部隊先頭隊出港時刻十八日〇〇〇	"
十七日 十七日 二四〇〇	十七日 二四〇〇	(2) 出港順序 第二部隊(指揮官所定)	"
十七日 十七日 二四〇〇	十七日 二四〇〇	(3) 2Sd 5S 16S 4S 2S 1S 順	"
十七日 十七日 二四〇〇	十七日 二四〇〇	(4) 以下略	"

鬼心

1434

1435

<p>GF 長官 十八日 二五〇</p>	<p>愛宕 十八日</p>	<p>GF 参謀長 十八日 一一〇三</p>	<p>GF 長官 十八日 二〇二</p>
<p>十八日 八二五 16. 1kdf 2YB 各長官 司令官</p>	<p>十八日 一九三 捷號機隊</p>	<p>十八日 一三〇 各長官 1kdf 通報 P 2F</p>	<p>十八日 一七八 2F 1kdf 5F 6F 各長官</p>
<p>MSB 機密第一八二五四番電 MSB 電令作第六六二號</p>	<p>捷一號作戰發動 一七三三</p>	<p>GF 機密第一八二〇三番電 2YB (21. 16. 18d) ハ比島方面海上機動反撃作戰ノ無線 骨幹ヲランシム目的ヲ以テ GF 編入セラル</p>	<p>GF 機密第一八二〇二番電 GF 電令作第三五九號 一 16. 7 YB ヨリ除キ 2YB (21. 18d) ニ編入ス 二 2YB (21. 16. 18d) ヲ機動部隊ヨリ除キ MSB ニ編入ス 2YB ハ高雄ニ於テ補給ノ上成ルベク速ニマシラニ進出ス</p>
<p>無線</p>	<p>手旗</p>	<p>無線</p>	<p>無線</p>

	<p>支官 二〇日 二〇日 二〇日</p>	<p>参謀長 十九日 一六五</p>	
	<p>通報 各長官 司令官 司令官</p>	<p>通報 司令官 司令官 司令官</p>	
<p>2YB 機密第ニ〇七五六番電</p>	<p>機密第ニ〇四二八番電 電令作第六七二號 2Is 馬公附近 16ノブルネイ湾待機ヲ解ク 2YB (16ノブルネイ以下之ニ依リ) 2YB 指揮官所定ニ依リ 行動スベシ</p>	<p>概定後追テ令セラル 右輸送ニ関スル貴隊菲島方面進出ハ計畫 島方面へ増援ノ企圖ヲ有ス 南方軍ハ約三大隊ヲビサヤ地区(中菲)ヨリレイテ</p>	<p>待機スベシ 2Is 16s 特令アル迄夫々馬公方面及ブルネイ湾ニテ</p>
	<p>無線</p>	<p>無線</p>	<p>10</p>

機密

<p>2Y3 三日 七五六</p>	<p>GKT 長官 二日 一三五二</p>	<p>三日 二日</p>	<p>GKT 長官 二日 一三三〇</p>
<p>三日 司令官 通報 各長官</p>	<p>三日 司令官 通報 各長官</p>	<p>三日 司令官 通報 各長官</p>	<p>三日 司令官 通報 各長官</p>
<p>2YB 電令作第 八 號 16 八第 十四 方面 軍 上 直接 協議 上 陸 軍 第 一 次 増 援 部 隊 輸 送 任 務</p>	<p>MSB 機 密 第 二 一 二 五 番 電 MSB 電 令 作 第 六 七 八 號 2YB 八 號 夕 日 三 日 早 朝 送 二 三 二 進 出 ス ベ シ</p>	<p>五 五 急 出 港 準 備 ナ セ 高 田 隊 一 六 四 五 出 港 ス</p>	<p>MSB 機 密 第 二 一 三 三 番 電 MSB 電 令 作 第 六 八 四 號 一 〇 二 六 號 輸 送 艦 八 十 日 便 宜 出 港 三 四 日 夕 刻 迄 カ ガ ヤ ン へ 回 航 ス ベ シ 成 止 ヲ 先 任 艦 長 指 揮 ノ 下 三 回 航 ス ル モ ト ス</p>
<p>無線</p>	<p>無線</p>	<p>手旗</p>	<p>無線</p>

done to
have 487

九〇

一、九〇號輸送艦ハセノニ於テ先作業終了後先任
 艦長指揮ニ付四夕刻迄ニカガヤンニ回航スベシ
 二、九〇ニ四夕刻迄ニカガヤンニ回航スベシ(情況依リ
 マニラ寄港差支ナシ)
 三、前項各輸送艦カガヤン着後仰警言戒部隊指揮
 官(司令官)ノ指揮下ニ入ル
 四、警言戒部隊指揮官ハ仰機密ヲ三九〇番電ニ依
 ル陸海軍協定ニ基キ歩兵二大隊基幹兵カラ
 カガヤンヨリ輸送之ヲレイテ島方面ニ揚陸セシムベシ
 五、右作戦終了セバ各艦ハ警言戒部隊指揮官所定ニ
 依リ「マニラ」ニ回航第ニ次陸兵輸送ニ備フベシ
 但シ九〇ハ決戦ノ情況ニ依リ別令ニ依リ「IB」ノ作戦ニ
 策應セシムルコトアルベシ

6mu

<p>〇四五 次長</p>	<p>△四月三日 〇四九 鬼怒</p>	<p>△四月三日 〇四九 鬼怒</p>	<p>青葉敵潜雷撃ヲ受テ魚雷命中 N 14.0 E 111 無線</p>	<p>27</p>	<p>鬼航準備ラナセ</p>	<p>電話</p>
<p>△青葉 〇五〇 鬼怒</p>	<p>△青葉 〇五〇 鬼怒</p>	<p>我鬼航準備完成</p>	<p>鬼航セヨ</p>	<p>信令茅二〇五號</p>	<p>略</p>	<p>〃</p>
<p>△青葉 〇五〇 鬼怒</p>	<p>△青葉 〇五〇 鬼怒</p>	<p>鬼怒青葉仮泊地附近仮泊旗艦変更後</p>	<p>南防波堤南端ノ一九五度七〇米ニ投錨補給</p>	<p>ヲ實施スベシ</p>	<p>略</p>	<p>〃</p>
<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>無線</p>
<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>△司令官 〇三〇 日</p>	<p>無線</p>

大長官
通報
2月27日

旗艦ヲ鬼怒ニ変更セリ

16日 司令官
二四日
〇五五六

二四日
16日 鬼怒浦波
六九〇〇二〇
各輸送艦
3log 下長官
18kg
通報
16日 下
輸送戰隊
司令部

九三

16日 機密第 二四〇五五六番電

16日 電令作 第一三號

電令作 第六八四號 依 第一次陸兵輸送ハ

左ノ要領ニ依リ之ヲ實施ス

一 軍隊區分 (隊名 兵力 指揮官)

本隊 鬼怒浦波 直率

第一輸送隊 第六第九第一輸送艦 先任艦長

第二輸送隊 第三第一輸送艦 先任艦長

二 輸送區分 (艦名 輸送兵員數)

鬼怒五〇〇 浦波一五〇 第一輸送隊各艦三五〇

第二輸送隊各艦四〇〇 但シ員數多少ノ増減

差支ナシ 携行物件ハ各員數ノ割合ニ塔載ス

西線

168

司令官
三四日
一六五六

GK
長官
総長

三予定上陸矣「レイテ島」オルモック
四「ホル」海峡ヲ経テ「カモテス」諸島北方ヨリ
「オルモック」ニ至ル

五行動要領 各隊「オルモック」着ヲ三六日〇四〇〇

「カガヤン」發ヲ二十五日左ノ時刻ト予定ス

スラ略

「M」機「容」第ニ四一六五六番電

「M」機「容」部隊戦斗概報

一富隊（鬼怒浦波）〇七三〇ヨリ一〇〇〇間ニ於テ

「マ」ヲ灣内及灣口附近ニ於テ三次ニ至リ

敵艦上機計約四十機ト交戦撃退

戦果撃墜九機被害鬼怒死傷者計

四七名船体兵器大ナル損傷ナシ

無線

16小司令官 二六日 一三〇	16小司令官 二六日	9F長官 二六日 一六五三	16小司令官 二六日 三三五
9F各長官 通報	二六日 一四〇〇 9F各長官	捷號作戰 部隊	9F各長官 通報 2F各長官
16小機密第2631の番電 鬼怒至近彈依り両舷後機使用不能	八北東不端 機密番電不明 我敵艦上機四機ト交戦中ハ不島	16小機密第2631の番電 16小機斗速報(十月廿六日) 16小機ハ二六日〇五〇〇第一次増援兵力(三大隊) 16小機モツク揚陸ニ成功セリ	浦波死傷者計二五名機銃彈ニ依り 重油タンクニ破口ヲ生ジ約二〇噸漏永 16小機密第261325番電 〇五〇〇第一次輸送任務ヲ終了又
無線	無線	無線	無線

鬼怒

<p>二六〇 一六五五 司令官</p>	<p>司令官 二六日 一四四七</p>	
<p>GF 各長官</p>	<p>GF 各長官 大臣 通報 2AF 長官 青葉</p>	<p>5F 2AF 各長官</p>
<p>GF機密第二六二六五五番電 鬼怒全力應急作業中ナルモ浸水火災未 夕收マラス自力航行ノ見込ナシ通信不能 輸送艦ニテハ曳航不能ニ付曳航艦派遣方 手配アリ度地矣ノ1144E 12316</p>	<p>合同ニ警戒中 下航行不能第百九十六號輸送艦ヲ 鬼怒後部機械室被彈火災浸水ノ夕目 一二三四浦波沈没地矣ノ1156E 12323 GF機密第二六一四四七番電</p>	<p>通信杜絶ノ虞アリ浦波被彈ノ夕停止 情況不明地矣ノ1156E 12315</p>
<p>無線</p>	<p>無線</p>	

二六日
二〇四六
下長官

二六日
二〇四六
通長官
15d
16d

可配慮アリ度
11
44
E
127
17

機密亭
鬼怒航不能
同艦、鬼怒航
一六五五鬼怒位置
二六
〇四六番電
聞

無線

鬼怒

戦果

(一) 戦果

(1) 對陸銃砲火ニ依リ撃墜

一九機(内不確實ニ機)

(2) 今右

ニ依リ撃破

相當數ニ上テ明確ナラス

(二) 被害

(1) 被銃撃及被爆並ニ沈没時ノ人員ノ被害

戦一死

准士官以上

五名

下士官兵

八六名

戦傷

准士官以上

六名

下士官兵

八六名

(四) 其他ニ依ル人員ノ被害

十名

(三) 船体被彈ニ依リ浸水沈没

六我カ兵力ノ現状

九四

七 功績

僅少ナル兵力ヲ以テ遠目大編隊艦隊ヲ受テ其烈ナル銃
爆撃ヲ受ケルニモ古ク之ヲ回避撃退陸兵ヲ緊急輸
送揚揚ニ成功任務ヲ達成今次作戰ニ著與セル功
績ハ顯著ナリト認ム

八 參考

(一) 戰訓

(二) 砲撃一般

(三) 敵機攻撃法

雷爆同時攻撃ニ於ケル爆撃ハ從來戰訓ヨリ艦尾
方向ヲ急降下ヨナスヲ例トセルモ今回ハ急降下掃射
機共艦首尾方向ニ關係ナク極端ニ大隊ヲ北月ニ攻撃

之來ルヲ常トシ降下角度殆トセ。度以上ナリ掃射機ハ概テ緩降下ニテ掃射ス爆彈ハ全部徹甲爆彈ニシテ水線上ニ於ケル舷側至ニ甲板上ノ人員兵器對スル破片ノ被害僅少ナリ

(2) 對掃射機射撃

掃射機ニ對シテハ敵ノ攻撃威力ヲ封殺スルト共ニ我が射撃効果發揮上機先ヲ削リ早目ニ射撃ヲ開始スルヲ可ト認ム目標ヲ指示ハ急掃射ノ區別ニ要ス及對艦機銃員ノ被害大ナリニ鑑ミ兩舷通視可能ナル極天機銃ニ對シテハ銃測北背後ニモ土嚢裝甲等防禦施設ヲ裝備スルヲ着意ヲ以要トス

(3) 對大型機

高々度ニシテ機銃ハ概テ射程外ナルヲ之對シ射撃セバ

4651

徒ニ彈藥浪費ニ陥リ易ク又全然射撃セズルニ低高度
 精密照準ヲ可能ナラシム故ニ高角砲威力尙高場合ハ機
 銃ハ射撃効果ヲ寧ろ敵ニ與フル精神的效果ヲ狙ニ左記
 標準ニテ彈藥浪費ヲ減シ射撃ヲ確實施スルヲ適當ト認
 ム

射撃開始 ↓ 爆撃針路ニ入りヨリ
 射撃期間 ↓ 今

古 投彈時迄

(4) 兵器故障缺損状況

機銃裝備數ニ投 込射撃數ニ對シて個打針個破損
 四乃至五彈倉遺棄發射ニ付燒付生起數枚破損ス 蓋シテ銃
 身ノ灼熱ニ依ルモノニテ至近過及轉能ニシテ海水飛沫ヲ蒙ル
 リタル機銃ハ冷却ノ爲故障生起セザルニ付 各銃ニ付
 殼拔ニ個打針ニ個補用當備ハ四員ノ要ス

(四) 防御一般

- (1) 可燃物處理ハ徹底的ニ要ス。後部機械庫火災、際該庫上方區劃内ノ塗料燻リ防火作業ヲ甚クシク困難ナラセタリ
- (2) 最小限度ノ油類格納所ヲ艦ニ設ケ機銃彈ニ對スル防彈並ニ消火裝置ヲ附スルヲ要ス。戰鬪前油類ハ最小限度保有スル如ク處理之ヲ後甲板ニ置キタルモ尙機銃掃射ノ多ク甲板上ニ多量ニ溢出シ危險ヲ感セシムルヲ以テ全部海中ニ投棄セル處爾後ノ輸送任務ニ機動艦燃料ヲ不足シ不安ヲ感セリ
- (3) 舷側被撃甚大ナル際ノ操艦ハ損所側ニ回頭スル如ク努力シ海水浸込防止ノ一策トスルハ有効ナリ。左舷後部舷側大破口ヲ生セル際左回頭中ハ浸水僅少ニシテ防水作業比較的容易ナリシモ反對舷回頭ヲ始メヨリ破口ヨリ海水奔流物凄ク爲ニ防水扉蓋ヲ損シ後方区劃ハ浸水ヲ増大セタリ

鬼船

(7) 防水蓆ノ使用ハ他ノ破口閉塞要具ト併用セラル可トス
 前部機械室左舷破口ニ對シ先ツ釣床毛布等ヲ用ヒ然後
 尚防水蓆ノ完遂ヲシテ防水蓆ヲ展張セモ以前ノ閉塞要
 具ノタテ密着セズ爲ニ浸水ヲ完全防止スルニ至ラス防水蓆ノ
 効果ヲ發揮セザリキ

(ハ) 機関一般

(1) 主送水ポンプノ耐車圍ノ強度ヲ増大ヲ要ス
 左舷至近彈ニ依リ四號主送水ポンプノ耐車圍ニ徑五十糎
 ノ破孔ヲ生ス該耐車圍ハ十八年六月二十三日ヨリカサレニ於テ
 ル被害ニ依リ造換會工廠ニヨリセルモノニシテ鑄鉄製ナリシヲ以
 テ強度不充分ナリシモノト認ム從來青銅製
 (2) 各種ポンプヲ排水並ニ消防用ニ使用シ得ル如ク特殊金
 物ヲ準備シ置クヲ要ス

前機屋浸水被害ニ對シニ在室補助給水ホテニ重油地管
ヲ接合排水ニ使用スルニ極メテ有効ナリキ

(3) 主送水ポンプ大排水弁ヲ不ゲ締弁トスル可ト認ム
十八年六月二十日コカッサルニ於ケル浸水被害ニ際シテハ排

水不能逆止弁閉塞シテ室内満水セシ鑑ミ逆止弁ニ
白シヲ挿入(艦内工作)コカ締弁トセシ今次被害ニ於テ
有効ニ作用シ排水ニ成功セリ但平素取扱細心ヲ注意
ヲ要ス

(4) 應急灯用電球ハロ式トスルヲ要ス

今次被害ニ際シ激動ニ依リ弛緩ヲ生ジ消灯スルモノ多ク

(從來ハロ式)

(二) 醫務一般

(1) 輕巡(乘員六〇名)ニ於テ看護料定員ト下士官ニ兵三現

定員下士官一兵ニシテ要ス

今更ニ戦斗ニ於テハ固有治療所及戦時治療所共收容

者三千名以上ニ達シ尙戦闘繼續中ナル状況ヲ呈シ治療

實施上極メ困難ヲ覺ヘタリ

(2) 戦闘配置ニ傷者運搬員ヲ規定スルヲ要ス

(水) 給養一般

(1) 戦中戦闘意炊配食ヲ為スベキヤ普通意炊配食ヲ為

スベキヤ決定ハ事前諸般状況ヲ考慮慎重ニ為ス

要ス普通意炊準備終了後状況變ジテ戦闘配食

ヲ為ササルヲ得ハル状況ニ立至ルトキハ献立ニ不備配食ハ

困難ヲ來スコト甚クシキアリ状況判断困難ナルハ寧

ク戦闘意炊配食一本立トス可ト認ム

(2) 戦闘終了後一息ツキ共ニ非常ナル渴ヲ覺ユ特艦以

應急作業長時間ニ及ビ高温高濕有毒瓦斯室内ニ防
 火防水等ニ從事スル時ニ益々飲料水ノ要求大ニシテ斯
 カル時乳酸飲料清涼飲料等配食スルトキハ疲勞力
 回復氣力振起ニ益スル所蓋シ絶大ナルモノアリト認ム
 (3) 戦闘中敵機ノ爆撃及機銃掃射等ニヨリ船体各部ニ故
 障續出シ且水シク送水管等ニ破口ヲ生シ戦闘意氣
 ハ勿論早速飲料水ニ困難ヲ來スコト多シ故ニ戦闘前
 豫メ眞水ノ準備ニ對シ利用シ得ルアラユル容器特ニ浴
 槽等ニ満水準備ヲナシ置クコトハ要アリ
 (4) 船体傾斜ノ際重量物移動ノ多ク居住區ニ分配格納
 アリシ米袋ヲ右舷ヲ左舷ニ移シモ昭南ニテ搭載セル
 死米袋ハ極メテ持運ニ不便ヲ感ジタリ糧食ノ容量
 關シテ是考慮ノ要アリ

(六) 重要書類、非常時持出ニ関シテモ爾前ヨリ十二分準備

ヲナレアリタルモ不慮ノ事故(救助來リタル第九號輸送艦大發

鬼怒煙突ノ下敷トナリ鬼怒ト共ニ沈没)ニタテ搬出不能トナリタ

ル遺骸ナリ身ニ附ケ得ルモノハ極力身ニ附ケ最悪ノ場

合ニテ處スルコト肝要ナリ

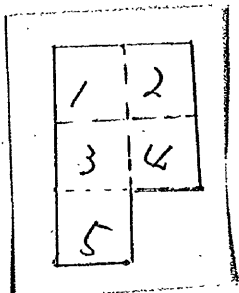
(二) 寫眞 略

(三) 天氣圖

艦沈没ニリ亡失ノタメ略

(終)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>2 年 12 月 26 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形文夫 (印)</p>	

自昭和十一年十月一日
至昭和十九年十月一日

比島沖海戦行動図

1454

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

一四
六五

比島沖海戦行動図

(海軍省 海軍部)
(海軍省 海軍部)

0900 比島沖
 1812 掃水機通器
 1930 水雷艇隊
 1940 第一飛行隊列 掃水機隊 140

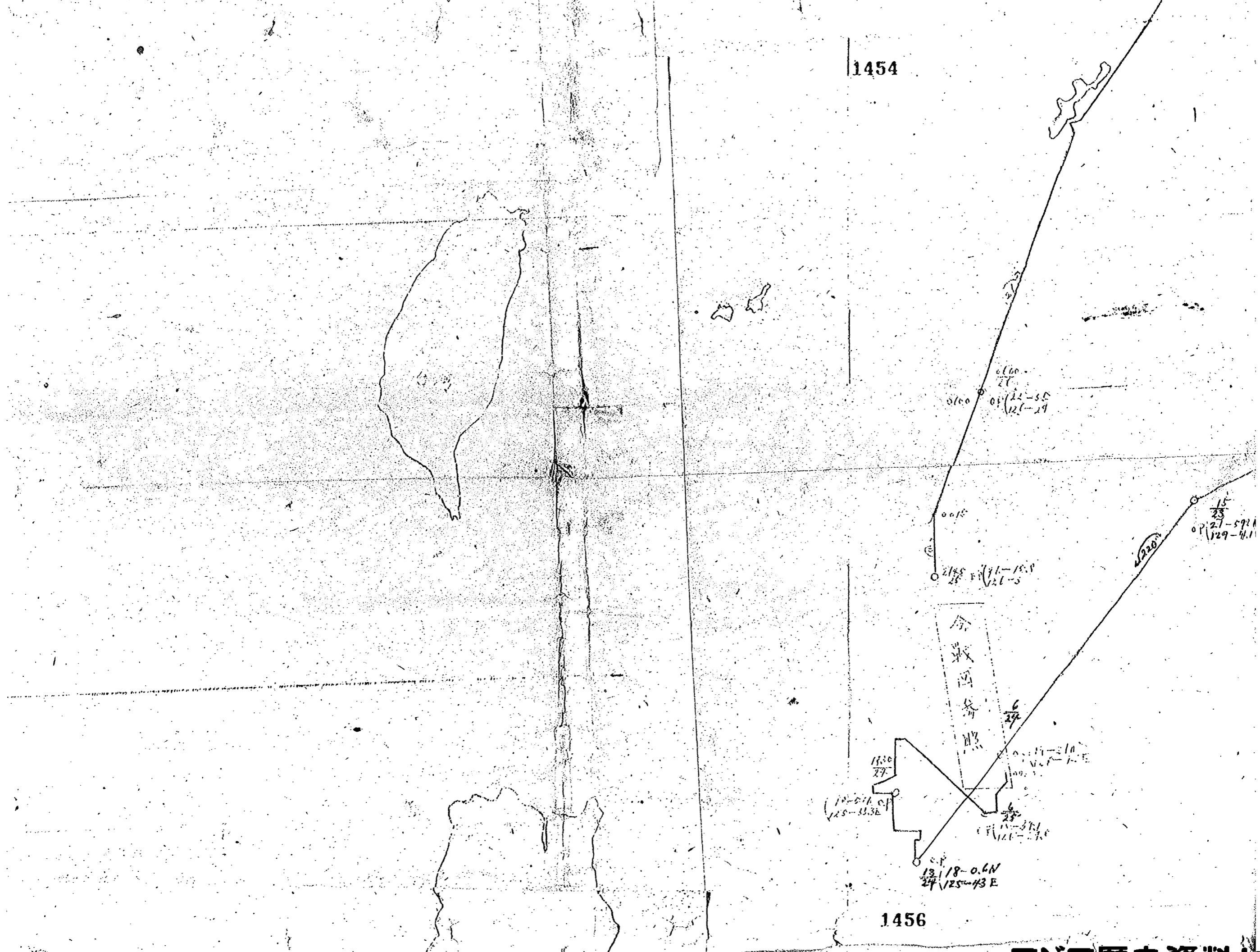
31-10
 133227
 1675
 29

30-4845
 134 13912

13
 27

1818

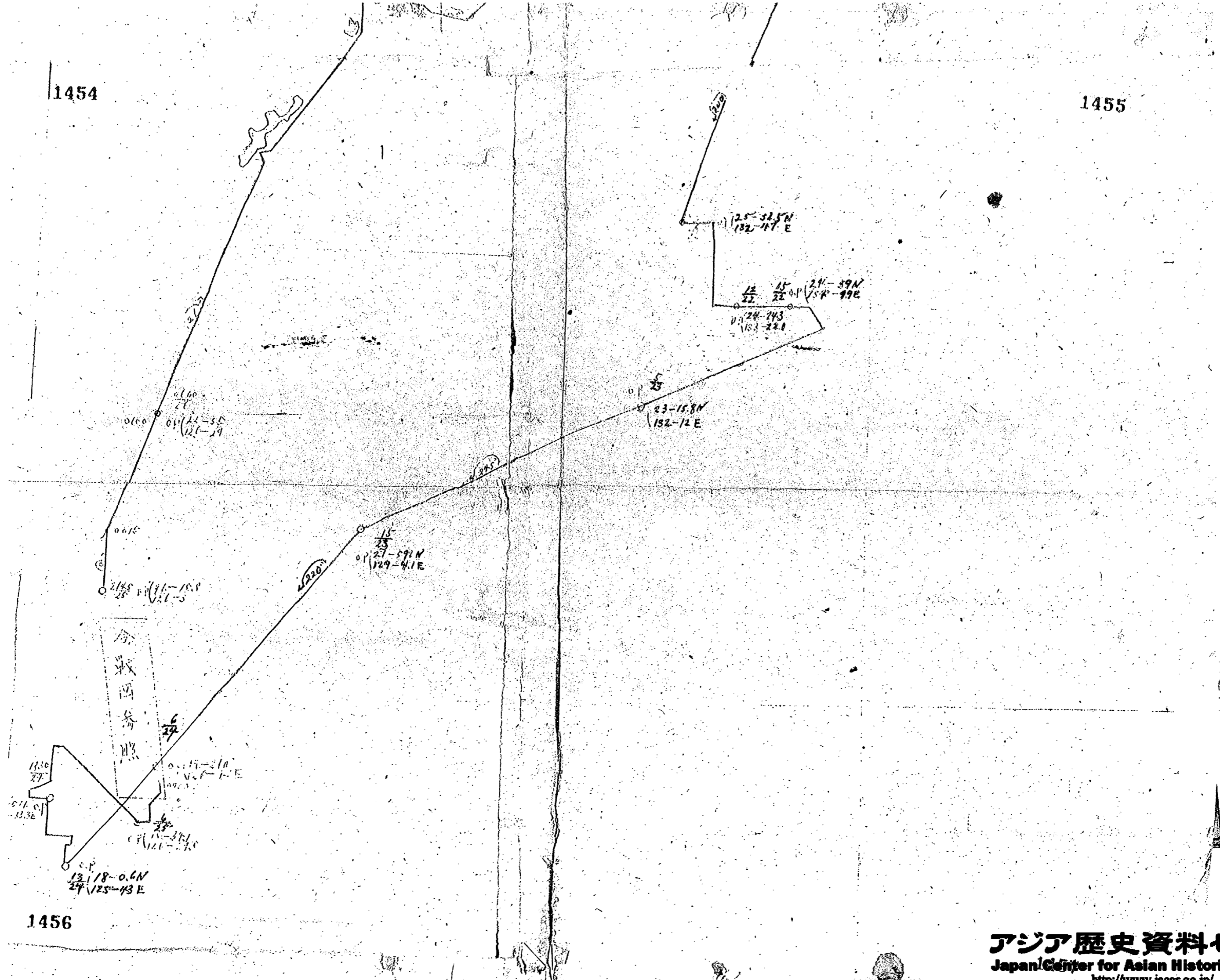
1454



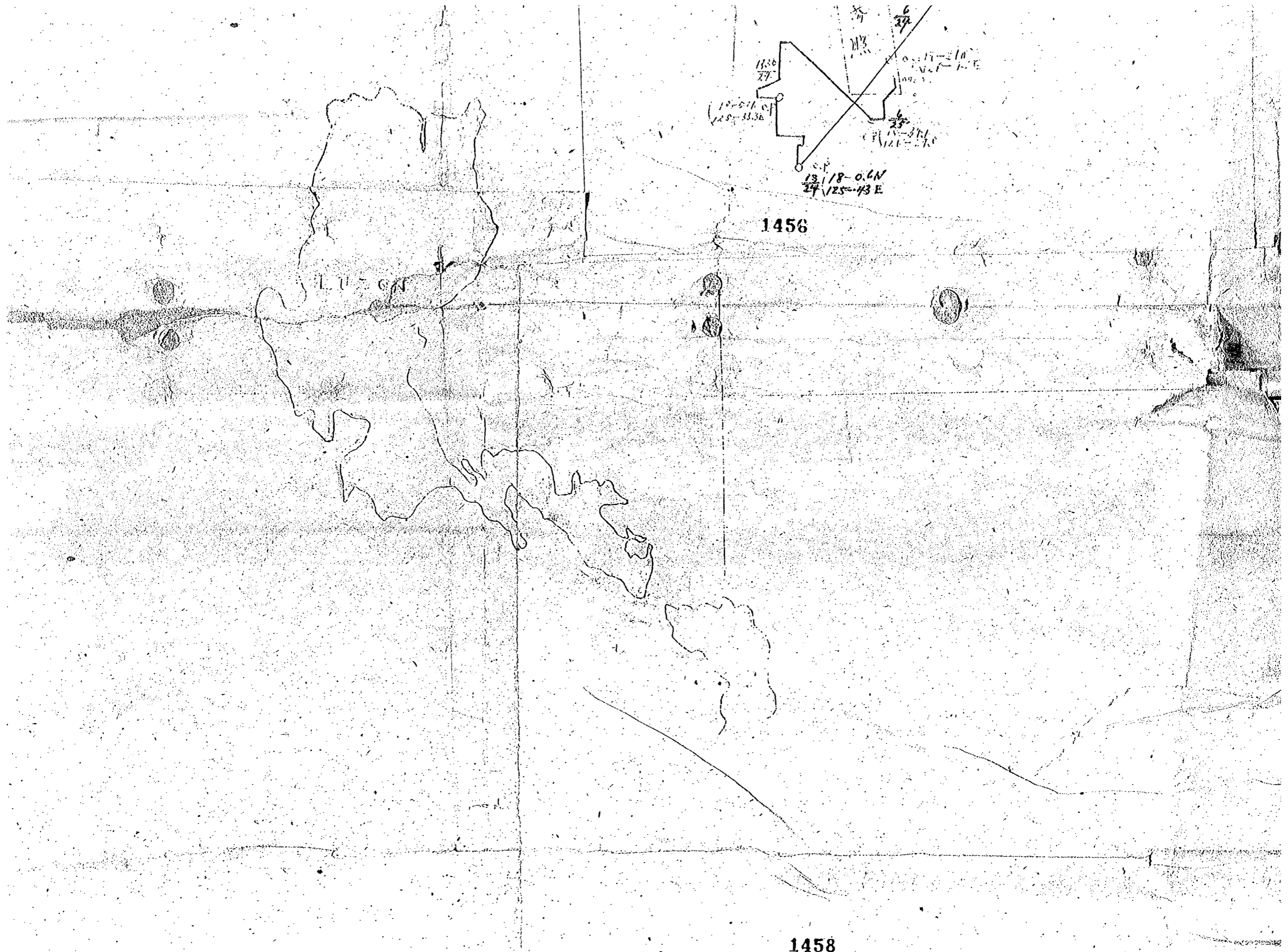
1456

1454

1455



1456



1456

1458

別紙 鬼怒行動図 (自十月二十三日
至十月二十五日 同日度)

